

K S K Q

エヌピーオー

# NPOちゅうぶ 通信

ねん がつごう ねん がつごう  
2024年12月号・2025年1月号



きゅうねん ふ かえ しんねん ほうふ だいひょうり じ 旧年の振り返り・新年の抱負（代表理事）
きゅうねん ふ かえ しんねん ほうふ じ む きょくちょう 旧年の振り返り・新年の抱負（事務局 長）
きゅうねん ふ かえ しんねん ほうふ あか あお 旧年の振り返り・新年の抱負（赤おに青おに）
きゅうねん ふ かえ しんねん ほうふ 旧年の振り返り・新年の抱負（リオ）
きゅうねん ふ かえ しんねん ほうふ 旧年の振り返り・新年の抱負（ナビ）
きゅうねん ふ かえ しんねん ほうふ 旧年の振り返り・新年の抱負（すてっぷ）
きゅうねん ふ かえ しんねん ほうふ そうむぶ 旧年の振り返り・新年の抱負（総務部）
ちゅうぶ かた かんじ なかきたきよし ちゅうぶを語る 監事：中北 清 さん

おや 親プログラム テーマは「つながる」
ちゅうぶ ぼねんかい ちゅうぶ忘年会2024
おにの秋祭り 食に浴衣にもりだくさん！
スクラム & ジメンジャー交流会
きどみち お へ や はつてんじん 木戸通雄の部屋@お初天神
まのスタ ぎょうとあらしやま マノスタ@京都嵐山
きょうりよくかい いり 協力会費 カンパ
へんしゅうこうき 編集後記

# 障害者権利条約を道しるべに更なる取り組みを展開しよう！！

## ■JICA調査員としてドミニカ共和国に

2024年で、私にとって一番大きなできごとはドミニカ共和国に2週間、出張したことです。滞在中は、政府の副大臣や担当者や面会したり、テレビインタビューにこたえたりしました。

ドミニカ共和国では、ようやく新しい建物にバリアフリートイレが出来はじめたところです。しかし、実際に使おうと思ったら鍵がかかっている、スタッフに鍵を開けてもらおうと思って色々つかえひっかえやっても見つからず、使えませんでした。日本でも今から40年前くらいにはよくあった風景です。

そうした中でも障害者運動は活発で、来年3月にドミニカ共和国の障害者権利条約審査があるので、パレルレポーターに向けて準備していました。日本での取り組みを話したところ、大変盛り上がりました。日本のように分離学校や入所施設が整備されていない分、回り道せずにインクルーシブ教育や地域生活を実現できるかもしれません。

あらためて障害者権利条約が世界の障害者の共通の道しるべになっていることを感じた旅でした。

## ■久しぶりのなんばおにごっこ、大阪城階段サポート

ちゅうぶでは、2019年以来になんばおにごっこをやったことに加え、大阪城のエレベーター工事中のサポートも取り組みました。

大阪城は天守閣まで行けるよういち早くバリアフリー化しましたが、それから30年近く経ちエレベーターの付け替え工事の時期になりました。工事期間中も大阪城に登れるように、ちゅうぶではサポートをしました。名古屋城は建て替えの際にエレベーターをつけない計画が問題になっていますが、大阪はどんな状況になってもバリアフリーをあきらめないという姿勢を示せたのではないかと思います。

## ■ちゅうぶ40周年、インクルーシブな社会に向けさらに前進を

2024年は改正障害者差別解消法の施行、「優生保護法は制定当時から違憲」と断罪した最高裁判決など、障害者運動の歴史の中でも特筆すべきことがありました。いずれも、長年に渡る取り組みの結果です。優生保護法判決を受けて、障害者基本法改正はもはや待った無しの状況です。また、今年は、いよいよ国で入所施設のあり方検討会が始まります。総括所見で求められている脱施設の動きを少しでも進めたいものです。

大阪府のまちづくり条例改正や大阪市のバリアフリー基本構想の見直しが進んでいます。しかし、大阪市では15年以上動きが止まっていたこともあり紆余曲折している状況であり、納得感のある結論を得るまで、粘り強い働きかけが必要です。

今年はいよいよ大阪関西万博が開催されます。この機に、障害者文化芸術を世界に向けて発信するとともに、大阪のバリアフリーを検証し、さらに発展させていければと思います。

1984年12月にちゅうぶの活動が始まり、40年が経ちました。この40年の活動をふまえて、皆で力を合わせインクルーシブな社会に向けて前進する一年にしていきたいと思います。



# ねん まく あ しょうげきてき 2024年の幕開けは衝撃的。



2024年は1月1日の能登半島地震でスタート。半島という地理的な要素もあるだろうけど、復興は遅々として進まないまま1年が過ぎようとしている。障害者に特化した災害救援を行ってきたゆめ風基金の創設者でもある牧口一二さんが9月26日亡くなられた。大阪を代表する強い想いと「ソフトな」運動のリーダー。大阪はハードソフト、いろんな個人、団体がつながりながら地域で生きる運動を進める特徴があるが彼の間口の広さ、臨機応変さにはいつも学ばされる。8月に「牧口さんを語る会」が予定されている。ちゅうぶではグループホームの同居取り組みは少しゆっくりペースで進んでいる。特に筋ジストロフィーメンバーが増え、忘年会では「チームトネヤマ」がラップを披露。現在8名。25年前に大森康裕さんの自立取り組みのためにグループホーム「すてっぴハウス」を作った時が、ちゅうぶの筋ジス支援の第一号だが、来年以降の展開は楽しみだ。

10月5日(土)には「なんばおにごっこ」。コロナ禍で中断していましたが、5年ぶりに開催し、281名参加。テーマはインクルジョーンズ。商店街からの食べ物、記念グッズも思ったよりたくさんもらえ、久々のなんばを堪能できた人も多かったかも。わざわざ名古屋、西宮からも参加がありました。息つく暇もなく、11月5日から大阪城天守閣階段補助取り組み。エレベーター更新工事中なので、階段で車いすを4人で担ぐという事業。なんとも時代錯誤的な、予約制でもないので予測不能な取り組みでした。まだ集計中ですが、40日間で285名の車いすや歩行困難者の方の階段補助をしました。多くは海外旅行者でしたが、修学旅行も多く、今回の取り組みが無ければ285名の方は天守閣に上がれずにあきらめていたことになります。初めて担がれた人も多く、最初は不安げ、でも最後は笑顔でした。毎日いろんなことがあった取り組みでしたが、次に繋がればと思います。

## ねん さて、2025年。

国民の4人に1人は75歳という超高齢社会へ。筆者もすでに高齢者の仲間入りで、電車で席を譲られることにすっかり慣れてきました。昨年初の訪問介護報酬改定カットでヘルパー事業者の倒産が止まりません。障害福祉サービスでもいろんな動きがありますが、入所施設から地域への移行が進むのか、分離教育から真のインクルーシブ教育に変わっていくのかが問われています。大阪では福祉サービス自体、量的には充実しているように思えますが、障害者自身の自立や社会参加につながらないような事業所も多く、選択肢は増えているようで、地域の施設化はじんわりと進んでいる気がします。旧優生保護法に基づく強制不妊手術問題は最高裁判所で旧法は憲法違反であると明確に断じ、国家賠償と優生思想の克服に向けての取り組みが求められました。こうした問題は1970年代から障害者運動が提起し続けていたことです。時代が大きく変わっていろいろ前進しながら、一周回って、もう一度原点に戻ってレベルアップした取り組みが求められている感じがします。

さて、ちゅうぶは？

人も増え、やるべきことも増え、法人内の多様化も進み、混沌とした世界の中で、ちゅうぶの存在意義を示せるか？ やっぱ大阪はおもしろい、ちゅうぶがあって良かった、と思える一年でありたい。

じ む きょうちよう いしだよしのり  
(事務局長:石田義典)





# 通所2024年度振り返り・2025年に向けて、 各活動チームからのメッセージをお届けします!!

## ミニアクセスクラブ

参加メンバーによる行き先会議にて、行き先について意見を出しあっています。

今年から、「ミニアクセス」では、みんなで行ったことのない駅に行こうと決めて、今年は「瑞光四丁目駅」や「蒲生四丁目駅」や「ドーム前千代崎駅」などに行きました。あと、新しいスポットに出掛けました！実際にしてみると新しい発見あり、バリアな場所もバリアフリーな場所もありました。

これからも、色々な場所へ外出していきたいと思っています！



## 販売チーム



法人内にて1杯100円で販売中、大人気のオニコーヒー。2024年は11月までで164,500円。2023年同月までの116%を売り上げていました。毎日誰がする・しないなど揉めることもあります。今後みなさんがホット一息つけられるよう励みます。



おにストアについては米騒動で一時期レトルトごはんがなくなることもあった他、昨今の物価上昇に伴い、一部商品を値上げするなど心苦しいこともありました。それでもメンバー発信で味噌汁やひねくれきなこ、オーガニックサイダーなど新商品もセレクトしていき、購入された方からは高評価をいただいています。今後もみんなの手軽なオーガニックコンビニを目指していきたいと思っています。

## 学校交流チーム

これまでの取り組みも継続しつつ、特別支援学校との繋がりを深めることを意識しました。

東住吉支援学校では高3生徒の実習受け入れの他、イベントビラ配布や卒業生メンバーを中心に在校生との給食交流を実施しています。来年も『偶然から必然』に変えるために、若い内から自立生活や制度のことをイメージできるシステムを構築していきたいと思っています。



加えて 2024年度は、東住吉区社会福祉協議会との連携によって、手話体験授業を区内の小学校で行うことができました。子どもたちは手話を楽しみながら覚えてくれていて、とても嬉しかったです。このような取り組みを今後も継続できたら良いと思います。



## てさぎよう 手作業チーム

今年度は若いメンバーが仲間入りして、クッションの製作やバナナストラップ製作に関わってくれました。「楽しかった、またやりたい!」と聞いています。手作業チームに新しい風が吹いたように思います。

新商品のおにキーホルダーも大好評で、阿倍野区役所販売会や御堂筋バザー、フェスなどでも販売しています。ミシンで製作のエコバッグは、ディスプレイの仕方を工夫してお客さんに見てもらいやすくしています。



会議もできる限り月に1回行っていて、これからも商品を手にとってもらいやすくなるような案を出し合っていました。



## きゆうさいえん チームルーフ(旧菜園チーム)

チームルーフは屋上を有効活用するチームです。

今年はバーベキューとシャボン玉と燻製をしました。シャボン玉の中に人が入れるか挑戦しました。結果は失敗。。。燻製は成功して、バーベキューは楽しかったのでよしとしました👍





来年はジャガイモとバターナッツカボチャ、大根とカブの種をまきたいです。また、バーベキューを企画したいと思っています！



## おにぶら

おにぶらの活動で行った場所はコリアタウン、グラングリーン大阪、  
ジーライオン大阪です。

まだまだ活動が少ないですが、楽しく活動しています!!



2025年の赤おに・青おにも、どうぞよろしく願いいたします!!





# 1年に1度のリオからのお便り

拝啓

皆さま、とても寒い日が続きますが、いかがお過ごしですか？（これを書いているのは11月の末でちょっと寒くなっている時期ですが、このお便りが皆様が届くころは、きっと寒い！と叫ぶくらい寒くなっていると信じて書いています）

2024年度は、色々と変化があった年度でした。長年リオに入居して、途中障害の進行により人工呼吸器を装着して地域生活をしていた小名志保さんが、症状が悪化してしまい、ご本人の意思でリオを退居、病院にて療養するという決断され、5月末で退去されました。とても残念でしたが、関係が切れるわけではないので、これからもお見舞いに行きたいと思います。

そして、リオの入居者が4人になり全員男性。むさ苦しくなったリオの共同生活が再スタートしました。今年は体験入居も3名受け入れており、まだ入居には至っておりませんが、それぞれのペースで地域生活の第1歩を踏み出しておられます。入居者の方も、明石に日帰り旅行に行かれた方、旅行に行かれた方、例年通り家での生活を満喫されている方がおられ、それぞれの生活を満喫されておられます。来年の1月には新しい女性の方の入居が予定されており、むさ苦しかったリオにニューウェーブが吹くなと思っております。来年度も引き続き、各入居者の方の自分らしい生活が送れるよう、お手伝いさせていただく所存です。

少しばかりですが今年度旅行に行かれた方の写真を添えてお送りします。残り少ない今年度も来年度もどうぞよろしくお願ひします。敬具



最近の  
小名さんの  
写真です



# 2025年 ナビ 一丸となって進みます！！



2025年というキリの良い年が始まりました。ナビでは個別支援、自立取り組みに加えて、東住吉区の基幹センター業務にもますます力を入れていかなければいけないと考えています。東住吉区地域の課題を、区役所や他の事業所等とネットワークを組んでいる自立支援協議会で共有し、なんとか解決に向けて少しでも進んでいけたらいいなと思っています。このところ協議会で話題に上っている課題は障害者雇用率ビジネス・個別避難計画・学校との連携など、どれも福祉の範囲だけではおさまらない課題で、何から手を付ければいいのか、なかなか難しいですが、まずは問題意識を共有するところからはじめていきます。今年度から取り組んでいる地域生活移行促進事業については、入所施設と新たな関係を持ちながら進めていけるので、新たな取り組みとして盛り上げたいです！（文責：平沼）

大阪市から委託を受け、基幹相談支援センター、計画相談、地域自立支援協議会などの基幹センターの業務を行っています。自立生活センターとして力を入れたい自立取り組みに力量が割けない現状があり11月から堀篤子さんが総務部から異動、森園宙さんが週2日のパートスタッフとして加入。障害当事者スタッフが増えました。まずは自立生活プログラムの企画、立案、実行（地域移行、グループホームの入退居、親元からの自立）、自立支援協議会の当事者部会活動、他団体と連携しての活動、情報発信などに力を入れていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。（文責：小坪）

# すてっぷ新年の抱負

ヘルプセンター・すてっぷ

みちした まさあき  
道下 将章

## 去年は変化の大きい年だった

2024年を振り返ってみると、利用者さんの入れ替わりや、すてっぷの職員・ヘルパーの異動等も含めて、変化の大きい1年であったと思う。2025年以降、すてっぷはこの変化に対応していくことが必要となると思う。

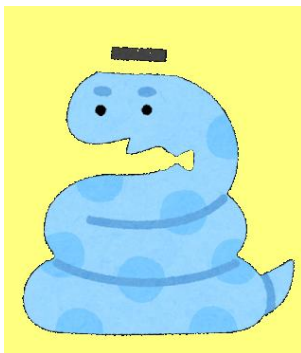


利用者さんは数名が亡くなられた。亡くなられること自体は、介護を行うヘルパーにとってどうしようもない点もあったかもしれない。しかし、その人の生活に精いっぱい支援はできただろうか、我々の力不足でなかったかという悔しい思いもある。反省すべきところは反省し、次の支援につないでいきたい。

職員の入れ替わりは、産休に入るという喜ばしい状況であれば、おそらく本人にとっては不本意であったのだろう退職者もいた。いずれにせよ、2025年はすてっぷの中堅層が数名いなくなってしまう、新しい職員が多い状況での運営となる。特に女性職員は、しんどい状況となりそうに思う。

## 2025年は変化に対応する年

現場を回すだけならとりあえずは何とかなるだろうが、今後のことを考えると、2025年は少しでも変えていく必要があるだろう。次の利用者さんに新たに介護に入っていくとともに、それを支えてくれるヘルパーを探していく必要がある。



現在すてっぷの介護を支えてくれている常勤ヘルパーさんも高齢化が進んでいる。これまですてっぷ(に限らずちゅうぶを)引っ張ってこられた方の高齢化も進んでいる。同様に利用者さんの高齢化も進むとともに、新たにすてっぷを利用される方も増えてきて、新たな対応を求められていく。

5年後、10年後、さらにその後はどうなるかを視野に入れて、今から対応していく必要があるだろう。正直、まじめに考えると、どうすればいいかわからなくなる。とはいえ、すてっぷを続ける上で、変化への対応は必要だ。

## 蛇にあやかり、復活と再生をつかさどる取り組みを進める

蛇足になるが2025年はへび年。インターネットで調べるとへびは復活と再生をつかさどるらしいので、新年の抱負として、すてっぷも変化への対応するために、復活して再生するくらいの意気込みで変化への対応を目指していきたいと思う。



そ う む ぶ  
～総務部より～



そ う む ぶ  
[総務部あるある]

- ★合言葉「やれば終わる！」 やらなきゃ終わらない…でもやれば終わる……
- ★誰かの不得手は、誰かの得手。歳末に限らぬ助け合い。
- ★出勤簿アタック：事務所出勤がレアな職員の身柄確保に情熱を傾ける。
- ★階段から入り込む夏の暑気に溶け、冬の冷気に凍える。

ね ん      せ わ  
2024年もお世話になりました。

ね ん      ね が  
2025年もどうぞよろしくお願いいたします！

しゅうねん さい  
ちゅうぶ 40周年に際して

かた  
これまでのちゅうぶ、これからのちゅうぶを語る

じむきょく り じ だい だん なかきた きよし かんじ  
～事務局・理事のインタビュー 第8弾 中北 清さん(監事)

ねん がつ しゅうねん むか  
ちゅうぶは 2024年12月で 40周年を迎えました！！

ほり へんしゅうぶ じむきょく り じ かた  
堀(編集部):事務局や理事の方に、これまでのちゅうぶを振り返り、ちゅうぶの将来を語っていただくという趣旨です。よろしくお願いします。

なかきた かんじ た ちば なかねん わた ばんそう  
中北さんは、監事という立場で長年に渡り伴走いただきました。今日は、長年活動されているNPO法人ふくてっく(元、福祉機器住宅研究会)で取り組まれている第三者評価活動を通して見えてきたことも含めお話ください。

けんせつ げん ごしやうがい き と  
すてっぷハウスの建設 言語障害が聞き取れた  
なかきた ちゅうぶ と の も と の 関わり はじめは、  
けんちくか せつけいじ むしよ ねん  
建築家としてでした。設計事務所を 1977年からやっていますが、最初は、クラブハウスとかゴルフ場とか、精神科のさわ病院などの建築をしてきましたが、1993年に創立したエヌビーオーほうじんに参加し、福祉の方に方向転換を図ってきました。1995年に阪神淡路大震災が起こり、あおば園仮設はうすの建設にも関わりましたが、その頃、ちようど、事務局 長の石田さんが、グループホーム(すてっぷハウス)の開発、整備への協力を求めてこられました。



ほり ちゅうぶ ハウスの間取りは、だんらんスペースが真ん中、その周りに居室が配置されていて、よく考えられているなど当時の模型を拝見して、思っていました。



なかきた とうじ りやうよていしや やまもと おおもり  
中北:当時の利用予定者、山本さん、大森さんとか5名の方のそれぞれの方の住まい方とか、希望を聞き取ることを、一生懸命しました。そして、間取りを立体化する模型を見ていただきながら、説明したり、希望を詳しく聞いたりしていると、ある日突然、脳性麻痺の言語障害がある方の言葉がちゃんと理解できるようになったんですね。

わたし しょうげきき よろこ  
私にとって、衝撃的な喜びでした。それが、ちゅうぶ と の 最初の関わりでした。

ほり ちゅうぶ の 建物 の 建設 に関与 いただいた の です ね。



## 自動センサーエレベーターを考えた

中北: とんとんハウス(木造2階建て)の階段昇降機の改善や昔の法人本部(中部障害者解放センター)があった建物(現在のナビ)でのエレベーター死亡事故の学識経験者も加わった検証委員会へも参加させていただきました。

2002年当時、荷物運搬機に囲いをつけて車椅子で昇降できるようにしていたのですが、小学3年生の子どもさんが身を乗り出して覗いていて、首を挟まれて亡くなるという事故でした。

安全なエレベーターに改善を図るとともに、重度の障害者がエレベーターに乗れるように自動センサーシステムを考えました。

2014年にオープンした現在の「おにわ(法人本部すてっぷ、青おに)」のエレベーターも同様のセンサーシステムをつけています。

これも、簡単なようで、大手のメーカーなどは協力してくれなくて、苦労しました。

堀: そのセンサーのおかげで、自分でボタンを押せない障害者も、エレベーターの前の行きたい階の床表示マークの上で待つだけで、センサーが作動して、自動的にエレベーターが来て、目的の階まで移動することができますね。

## リオの改修 赤おにの建設 おにわの建設

中北: それから、2006年にはリオの改修をしました。もともと高齢者向けマンションを経営されていた建物で、障害者が使いやすいお風呂を設置するなどの障害者向けの改修でした。

2007年には、赤おに(作業所 障害者活動センター)です。もとは、戦前からの長屋の空き家でした。安全上問題がないか、当時、大阪市と協議し、その後も小さな改修はしていますが、築80年以上となっているので、今後の展望を検討する必要があります。

次は、現法人本部が入る「おにわ」の建築です。

赤おにの向かいに土地を確保することができて、4階建ての自社ビルを建てました。地鎮祭は13日の金曜日でしたが、神道的には縁起が良いらしいです。

2014年に建物は一気に建てましたが、3階、4階は2017年に改装オープンしました。



## 監事としての想い

堀: ちゅうぶが大きくなっていく過程で、建築関係にずっと関わってくださったのですね。監事になられたのはどいうタイミングだったのですか。



中北: 2014年に前代表理事の楠敏雄さんがお亡くなりになり、尾上浩二さんが代表理事に就任されたときに、監事が空席だったので、現理事の中村さんとじゃんけんで負けて決まりました。

なんだか、いい加減な決め方だったわけですが、今日は、監事としてたくさん申し上げたい想いがあります。

堀: 監事というお立場と、中北さんが20年以上一生懸命取り組まれているNPO法人ふくてつでの第三者評価活動を通じて、見えてきたものを通して、ちゅうぶを語っていただければと思います。

ひとつめ ちい ちい ふくし い  
一つ目 小さな福祉にまともらないで行こう！

なかきた だいさんしゃひょうか かつどう つう さまざま ほうじん み  
中北:第三者評価の活動を通じて、様々な法人を見てきて、福祉業界全体で危惧していることが2つあります。

ひとつは、ちい ちい ふくし す  
一つは、小さな福祉にまともり過ぎていることです。様々な福祉団体は、そもそも地域の課題に身を挺して活動を始めたところが多いですが、制度が整い出すと、その枠組みの中での福祉、いわば小さな福祉にまともっていくところが多いです。

せいど もんだいていき しゃかい か と く  
制度への問題提起 社会を変える取り組み

なかきた うんどうたい  
中北:ちゅうぶは、運動体としてのエネルギーをもち続けているので、頼もしいと思っています。

また、「なんばおにごっこ」のようなイベントだけでなく、制度に対する問題提起、それができているのが大阪の強さだと思っています。

ほり ながねん と ちい き い  
堀:長年の取り組みで、地域で生きるための制度、例えば、重度訪問介護などを一生懸命、障害者運動は作ってきたわけですね。

でも、しょうがいしゃ じんけん しゃかい にんしき きはく  
でも、障害者の人権についての社会の認識の希薄さがまだまだ見受けられます。

たとえば、今年の大阪府や大阪市との交渉でも、病院での障害者の処遇が問題になりました。制度として、一定程度、重度の障害者は入院時にヘルパーを利用できるとされていますが、多くの病院が認めてくれません。そして、入院中に、ご飯に薬をかけたり、体位変換もしてくれなかったり、誤嚥や介護の誤りで障害者が亡くなることさえあります。

しょうがいしゃ じんけん みと ひつよう  
障害者の人権を認めさせる必要があります。

ふくし せかい もんだいかいけつ とく よ なか  
福祉の世界だけでの問題解決でなく、特に、世の中の生産活動を担っているマジョリティに人権問題を理解してほしいですね。

なかきた いぜん おおさかせいしんいりようじんけん と  
中北:以前には、大阪精神医療人権センターの取り組みで入院患者の訪問活動にも参加していましたが、医療の世界は問題が多いですね。

ほうもんかつどう う い びよういん  
訪問活動すら受け入れてくれない病院もあります。

ちい き こう すす  
地域移行もなかなか進まないです。

いりようがわ もんだい ちい き しょうがいしゃ い  
医療側の問題もありますが、地域で障害者が生きられるようにしっかりと変えていかないとイケませんね。

ほり しょうがいしゃ と ま かんきょう きび  
堀:障害者を取り巻く環境はまだまだ厳しいです。制度ができて、運動的な課題はたくさんありますね。そういう意味では、運動と事業とのバランスがとても難しいですね。



ふた め こうじょう  
二つ目 マネジメントスキルを向上しよう！！

なかきた ちい き かだい じゅうそうてき ふくしじぎょう  
中北:地域課題が重層的になっていて、福祉事業の範囲がどんどん拡大していつています。ところが、法人としての組織マネジメントスキルが十分でない、福祉業界ではなかなかできていない未熟な面があります。

ふくしじぎょう きほ おお と く た き  
福祉事業の規模が大きくなり、取り組みも多岐にわたります。現場の延長で管理するのは難しくなっているのではないかと感じています。

ほり しょうがいしゃうんどう こじん うんどうか あつ な た  
堀:障害者運動は、個人の運動家の集まりが成り立ちになっている傾向が強いですね。そういう意味では組織マネジメントということが、わかりにくいと思います。何が必要かお聞かせください。



## 編集部:用語の注釈

組織マネジメントとは、ヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源を効果的に活用することで、企業のミッションやビジョンを実現し、新しい価値を創造し続けるための組織管理を指します。

## 組織マネジメントの向上に必要なこと

### 1番目 人の和が大事 人を活かすこと

中北:1番目は、人の和が大事です。家族以外がなくなるには、努力と会話が必要です。家族は無条件に結びつくのだけれど、組織では人と人を結びつけるものが必須です。

ちゅうぶにおいて、人を結びつけるものを確立していくということが大事です。

共通の目的に向かって、相手をリスペクトして、その中で自分は埋没するのではなく、自分らしく個性を発揮するのが理想です。

人を活かしていくのが本当の組織マネジメントだと思います。

### 「アイツの問題」をあげつらわない

中北:うまくいかないのは、誰が悪いのか、すぐに「アイツ」が問題というふうにとらえがち。ある法人は「アイツ」が…というのをやめようと呼びかけているところがあります。個人の問題でなく、組織として何が課題かをとらえることが大事です。

### 2番目 組織の目指す目標の可視化

中北:2番目に組織の目指す目標を可視化する必要があります。理念、基本方針を掲げていても、みんなが同じ想いなのか。もう一度確認する必要があるのではないのでしょうか。

ちゅうぶの沿革を振り返って、どういう想いでこの組織を作ってきたのか。個人個人の意思がばらけ始めているところがないか、見ていく必要があります。

1 人ひとりがいろんな考え方で障害者問題に取り

組んでおられるのだけど、ちゅうぶの方針を理解した上で、個々人の想いをどう調和させるのかということが大事で、反発してはいけないと思うのですね。

しかし、難しい側面もあります。組織が決めた理念・方針の枠を厳しくすると、個人の自由意思を束縛することになります。

組織は、個人の意識を取り残してはいけません。誰一人取り残さないということも大事だし、個人は組織の意思を逸脱してはいけないのです。

ここをしっかりとっておかないと、人間的なトラブルに発展することもあります。



### 3番目 職員のスキルの向上

中北:3番目が、社会ニーズの把握を行い、その課題解決のために、職員のスキルを継続的に向上させることです。

職員のスキルの向上によって、組織マネジメント力を確かなものにしていくことにもつながります。では、職員のスキルとは何でしょうか？

「マインドのスキル」「知識や支援技術のスキル」「行動力のスキル」が大切です。

「マインドのスキル」は、ちゅうぶの理念・基本方針に立ち返って、想いを共有することが道筋になります。

「知識や支援技術のスキル」は、研修をどう充実するのかということです。一人ひとりの人事考課にも関わるんですが、目標管理をして、どういう部分を評価していくのかという「研修計画」、受けた研修の評価、見直しをする仕組みが必要です。

#### 編集部:用語の注釈

人事考課とは、企業が定めた基準に基づき、従業員の業務実績や能力、態度などを評価する制度です。人事考課の目的は、従業員の成長や活躍を支援し、組織を活性化させることです。

漠然とした研修でなく、活かされる研修を

中北:研修を受けてきた人だけがスキルの蓄積ができるのでなく、組織にフィードバックする仕組みが必要です。

コンパクトに10分だけでもいいんですよ。研修から帰ってきたら、みんなに共有することが大事です。

ある団体では、職員一人ひとりにキャリアファイルを作成して、研修記録をファイリングしています。これを組織として管理しておく、職員個々のスキルを把握できるし、何に興味を持っているのかわかります。

中北:「行動のスキル」は、みんなが安心して行動できるかということです。働き甲斐とか、仲間意識とかあるか、問題意識の共有ができていかなどにも関わりますが、環境の部分や人間関係の部分もあります。そういったものが円滑に整備されていて、行動のスキルが上がってくるのだと思います。

事業所はスタッフの安全安心の基地

中北:建築士の立場から見ると、事業所の環境の整備はとても重要なポイントです。

事業所は、スタッフや利用者にとっての安全安心の基地であるべきですし、スタッフの誇りになる

ような建物であれば、人材確保にもつながります。

社会とのつながりを意識した地域のランドマークになるような建物にしていく、そういう視点が大事です。

#### 4番目 組織作り チームワークの仕組み

中北:4番目には組織作りです。一人のリーダーがいて、その人がひっぱっていけばいいということではなく、組織的に全体を視野に入れて、チームワークで仕事や活動をする仕組みづくりを行う必要があります。

全体を見通して調整すること

中北:職員のスキルが高くて、一人ひとりが一生懸命活動しているだけではダメです。

例えば、保育所の例では、保育所の先生方は目の前の子どもがかわいくてしかたがない、休み時間がないぐらいがんばっているのですが、保育所の運営や地域福祉への展開などの視点はまったくないわけです。

方針をもって、全体を見通して、多角的なスキルや視点、価値観をうまく調整するのが組織のマネジメントです。



組織がかっちりしてないから自由なの？

堀:私の前職は公務職場だったので、非常にかっちりした組織でした。指揮命令系統、一人ひとりの職務分担、担わないといけない責任と権限の範囲



もはっきりしている。ところが、ちゅうぶには、何も決まりがないんですよ。

事務局や部門長はあっても、それ以外は誰もがフラットで、なんでも言える組織なんだけど、新しく何かをしたいときに誰と一緒に責任を果たしてくれる人なんだろう、誰に相談するのが適切なんだろうか、わかりにくい。

一人ひとりが、意識的に行動しないければ、最低限やることだけで、場当たり的なその白暮らして職場生活が送れてしまう。

でも、ちゅうぶの爆発力と自由なところは、組織がかっちりしていないからこそ、実現しているのではないかなとも思うわけです。



### 職責に応じた責任と役割の明確化

中北：組織化というか、権限のヒエラルキー（組織図）をある程度は、はっきりしないといけないと思います。

身分制度的になってはいけなく、それぞれの職責に応じた責任と役割を明確化していく必要があると思います。

堀：ちゅうぶは、中間層が少ないと思うんですよ。古くからちゅうぶをひっぱってきた人と、ここ5年～7年以内ぐらいに入った新しい人達と2局化していて、事務局的なトップランナーの人たちが

献身的にがんばっている。普通の職場みたいに、部長、課長、課長代理、係長みたいな職階があるわけじゃないんですよ。

中北：福祉にはそういう実態は多いです。例えば保育所によくあるのが60～70歳の園長先生と、あとは20～30代の若い保育士さん大勢という構成です。

ところが、最近が変わってきました。園長の下に、統括主任とか、主任とか、さらには児童の年齢ごとに責任体制を引いて、職責のヒエラルキーを作って運営を始めているところはかなりできています。

### 情報伝達する力(コミュニケーション)が大事

堀：ヒエラルキーで堅苦しくなってはいけませんが、職責を明確にすることで、仕事人が人を育てる側面が強化されると思いますし、情報の共有化の面でも、組織的に伝達すべき人が決まっていると、情報が的確に早く伝わるのではないのでしょうか。

中北：情報の共有の問題でいうと、会議などでの一方的な情報伝達で終わっているのではないかということです。ちゃんと伝えるべき人にコミュニケーションをとって、伝えられているのか。情報伝達の力が問われますね。

それと、職員の意見のくみ上げができていないのかということが大事です。

### 5番目 計画的な行動

中北：5番目が、計画的に行動をして、タイムスケジュールを守ることです。

例えば、なんのための会議で、誰が出席し、いつ始まって、いつ終わるのか、一般の会社ではきちんとされていることが、福祉業界では、なんとなく開催されるということが多くあります。

## リーダーの役割とは？

堀：組織マネジメントにおけるリーダーの役割とはなんですか。

中北：現場の実践に長けた人がリーダーに適しているわけではありません。

例えば、病院を例にとると、病院のトップ(理事長など)は医師ですが、組織マネジメントがしっかりしている病院は、事務長がしっかりしています。現場には、様々な持ち場や専門的な職種・スキルがあります。病院経営の方針を踏まえながら、多角的なスキルや価値観を調整していく力が、組織マネジメントのリーダーには求められます。ドクターが経営すると病院はうまくいきません。

## 人を活かすポジションにはめる役割

中北：権限のヒエラルキーであるポジションに職員をあてはめていくのは、やはり、リーダーの管理です。現状の人事考課の点数だけでは難しいですね。現状だけでなく、何に伸びしろがあるのかを含めて判断することが大切です。どういう方向に活用することがその人材を活かすことにつながるのか、それを考えるのがトップリーダーの仕事です。

## どんなリーダーがいいのか

中北：PM理論というものがあります。

P型のリーダーは軍隊の將軍みたいなもので目標達成に向けて突き進みます。M型のリーダーは組織の調和を図って、みんなを前面に出して取りまとめていくリーダーです。

一般には、PもMも強いPM型のリーダーが理想とされていますが、どの型のリーダーが良い、悪いというのではなく、今、変革期にあって問題を次々に解決しなければならない時期は、P型が強いリーダーがいいだろうし、安定した状態の中で少しずつ改善を図る時期にはM型が強いリーダーがいいのだと思います。

ちゅうぶが今はどういう時期にあたっているのか、

どういうリーダーにバトンを継ぐべきなのか、みなさんで考えてください。



上記の図は Schloo WEB ページより引用

## リーダーシップの良い事例

堀：リーダーシップの事例でいい取り組みはありますか。

中北：第三者評価基準では、福祉サービスの質を問うだけでなく、組織マネジメントを問う項目がたくさんあります。

評価項目を用いて自己評価をして、改善に結びつけているという良い事例があります。

まず、課題を分析、整理して、文章化します。さらには、課題を一覧表にして、改善方針、改善時期の目標、責任者(チーム)を明確にして、進行管理し、年次計画につなげていきます。

組織マネジメント力向上に向けた取り組みの進行管理と指導を行うのが、まさにリーダーシップです。

## ちゅうぶに期待すること

堀：最後にちゅうぶに期待することについて、お願いします。

## ちゅうぶの運動エネルギーを次世代につなぐ

中北：やはり運動量がちゅうぶの魅力です。これまでのエネルギーをもっともっと発展させて、次の世代につないでいってほしいと思います。



若い人は、運動を担うことがしんどいと感じる人があるかもしれません。

知的障害者の親が作った団体などは、バザーをして資金集めをしたり共に汗をかいてきたけど、今の世代の親は、サービスを消費する立場になりきって、一緒にサービスを運動的に作っていこうという立場にたてないと聞くことがあります。

堀：私たちの若いころは、介護の制度もバリアフリーも何もありませんでした。自分で街にでようとしたときに、すでに整っている今の若い人とは感覚が違うのはしかたないですが、世の中を変えていく意義は伝えていきたいですね。

中北：ある程度制度ができて、地域が抱える問題も重層的になってきています。課題はまだまだ山積しています。地域を耕して、障害者を受け入れる土壌を作る必要があります。

## ちゅうぶの魅力発信を！！

堀：施設の訪問活動などを再開し、活動も活性化したいですが、ヘルパーさん不足、圧倒的な人員不足です。ちゅうぶの魅力発信をどうすればいいでしょうか。

中北：みんなが生き生きと働ける職場づくりと新しい福祉職場のイメージ作りを急がないといけません。

障害者支援はストレスを抱えて独りでしんどい想いをするというイメージが一般にあります。支援にあたる個々の職員をしっかりと支え合う仕組みを作り、安心して明るく働ける職場づくりを一層進める必要があります。

例えば、メンター制度やスーパーバイズ制度などの検討も大事です。

一人ひとりが輝いていける職場づくりをしてほしいです。

そして、一人ひとりが団結したちゅうぶのエネルギーの強さは、一番大きな魅力です。

堀：当事者の存在から社会を変えていく。でも、それは障害者だけでなく、健全者が自分事の問題としてとらえて、一緒に社会を変える主体となつてほしい、みんなが同じ目標を見すえて、やりがいを感じられるちゅうぶにしていきたいですね。

## つながる輪を広げ 新しい人を巻き込む

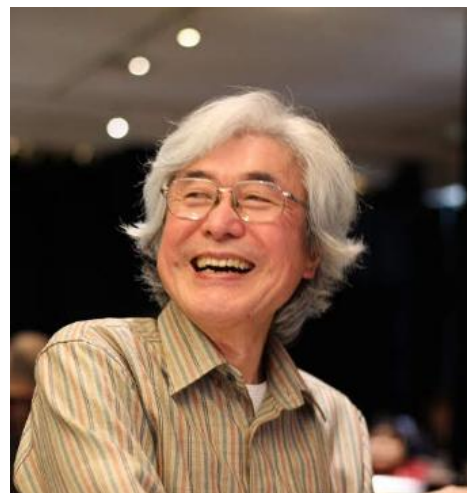
中北：障害の問題でも精神障害者、知的障害者、福祉では子ども問題、高齢者問題、貧困問題など、幅広い課題でつながる輪を広げて、地域社会の動きを作るような取り組みになっていくと世界が広がるかもしれません。

スタッフ不足で悩んでいるのにできないと思われるかもしれませんが、新しくステージを変えることによって、新しい人を呼び込むことができると思うんですね。

新しい人を巻き込みながら、成長していくちゅうぶになってください。

堀：中北さん、貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。

40周年を機にさらにみんなでがんばっていきたいです。



# 親・支援者といっしょに考える『自立生活』とは

昨年度に引き続き今年度も「親プログラム」の取り組みを開催しました。

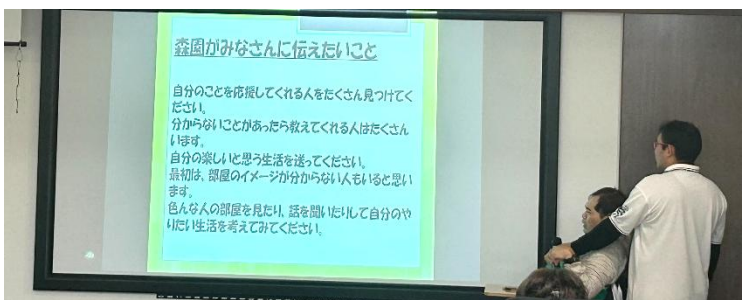
今年度のテーマは『つながる』です。

昨年度と違って、今年度はご参加いただいたご家族とスタッフが話せる場を多めに設定しました。

とは言っても、いきなり何を話せばいいか皆さんお困りになるだろうなと思い、導入として、小坪さん・高田さん・森園さんにそれぞれの自立生活を発表していただきました。



小坪さんからは、自立生活センターのこと、医学モデルと社会モデルの違いなど、ご自身の自立生活も交えながら発表いただきました。



森園さんからは、実家→グループホーム→一人暮らし。そして今年からナビで当事者スタッフとして働くことになったこと、それによってどう変わったか？ご自身の生活の紹介を踏まえながら発表していただきました。





高田さんからは、幼少期のエピソードや一人暮らしでのこだわり、学生ヘルパーを利用した生活や旅行の話を色々とお聞きました。

後半は親御さんだけ集ってもらいグループワークをしました。

テーマは子どもの自慢できる所と前半の感想です。親御さんから見たお子さんの自慢ポイントは、支援者として再確認できるものと新たな視点両方あって貴重な時間となりました。

他にも不安に思っている所など発表いただいて、それぞれのご家族さんが日々をどう感じて生活されているのかを共有できる、まさに今回のテーマの『つながる』に沿った有意義なグループワークとなりました。



今後も、こういった企画を続けていきたいなと思っていますので、よろしくお願いします。



# ねん ほうねんかい 2024年ちゅうぶ忘年会

きよねん ひつつ ことし か ほうねんかい かいさい  
去年から引き続き、今年もヨロベースさんをお借りして忘年会を開催することができま  
した！今回は、ヨロベース内のレストランを<sup>ない</sup>経営しているモノノベカンパニーさんにもご  
きょうりよく 協力いただき、去年よりもグレードアップしました。



かいじよう  
会場はやっぱりひろーい



しかい はぎはら さいき  
司会は萩原さんと齊城さんです。



りようり  
料理もおいしー！







出し物のトップバッターは木戸さんです！  
熱い歌を歌ってくれました



2番目は新人紹介、北岡さん・杉原君・上村君・杉本さんが自己紹介と好きな物と特技を発表してくださいました。  
忘年会は残念ながら体調不良で参加できなかったですが鈴木君も今年から赤おに通所されています



きたおか  
北岡さん



かみむらくん  
上村君



すぎもと  
杉本さん



すぎはらくん  
杉原君

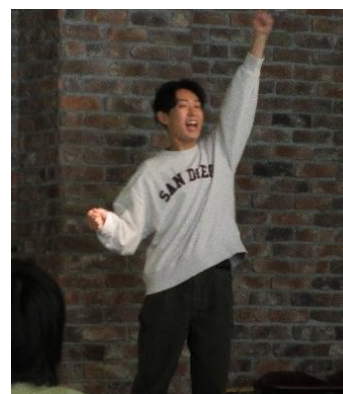


3番目は通所有志、ピタゴラ体操と行進をやってもらい、会場を沸かせました





4番目はチーム刀根山、今村・安井・青木・上村・逢坂の筋ジスチームが「チームトモダチ」という歌を替え歌にして歌ってくれました



5番目は、佐々木くん・東さん・安澤くんによる音楽ショーです。東さんは途中、弾き語りで歌を歌ってくれました。



6番目は、去年に引き続きレジェンド有志の皆さま、めちゃくちゃ面白かったです！

最後は、通所メンバーによるよさこい踊り。リーダーの萩原さん・増永さん・岡嶋さん・後藤さん・スタッフは松倉さんが踊ってくれました。



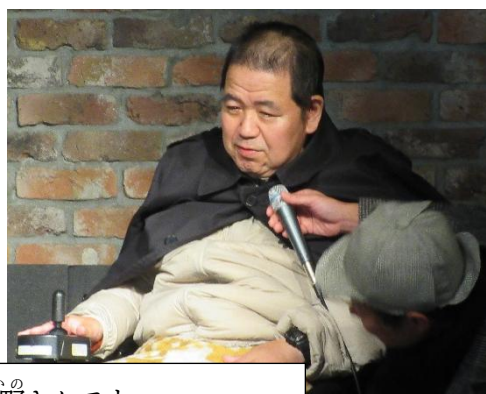
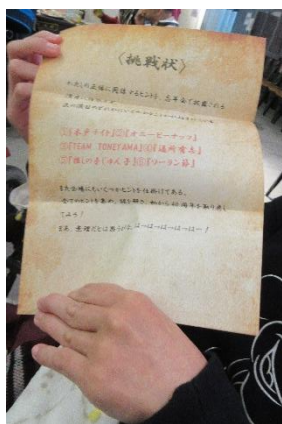
今年も出し物を担当してくださった方、本当にありがとうございます。皆さんのおかげで、めちゃくちゃ楽しい忘年会になりました！





つくえ した はんじん からの ちょうせんじょう  
机の下に犯人からの挑戦状

今年の忘年会はミステリーツアーの要素をい  
れて、『40周年記念パーティーを開くために  
必要な物を何者かに盗まれた。出し物と会場  
に犯人に繋がるヒントがあるので、そのヒント  
を集め犯人を探し出せ』というゲームをしまし  
た。



たんていやく おおさか なかの  
探偵役の逢坂さんと中野さんです。  
逢坂さんはとても良く似合っていました！

景品は、犯人役が滋賀県出身というこ  
とで、滋賀県に纏わる商品を景品にし  
ました！  
通所メンバーの佐野さんのお兄さんに  
寄付をいただいたので豪華な景品に  
なりました！



今年も1年お疲れ様でした！いろいろとある1年でしたが、無事こうしてみんなで集まりました。  
来年もこうして皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。

# おにの秋祭り

読者の皆様こんにちは、菜園日記担当の萩原です。今回は  
去る10月2日に秋祭りが開催されたので、その様子を  
読者の皆様にお伝え致します。

『秋祭りって何をしたの？夏祭りとは秋祭りはいったいどこが  
どう違うの？』という疑問をお持ちの読者の皆様も  
いらっしゃると思いますので、疑問にお答えしたいと思います。

まず前者の疑問についてですが、たこせん、ミルクせんべい、  
祭り屋台の定番にして王道チョコバナナといった食品  
の販売行為。輪投げ、スーパーボールくじ、ペットボトルボ  
ーリングといった俗に言われている当てものの屋台を出店致しました。

次に後者の疑問にお答えしますが「呼称の相違のみで内容の相違点はまったくございませ  
ん!!」開催時期が10月の為便宜上秋祭りと呼称しているだけです。夏祭りと秋祭りで行った  
行為自体はまったく同一視して頂いてかまいません。強いて相違点を列挙するなら、御神輿が  
一度たりとも登場していないということになりますね。(爆)

ちゃんと我々女性は花柄の浴衣を着ましたし、ユーチューブからですがいかにもお祭りらしいお  
囃子を流したり致しました。チョコバナナが一番先に完売しました。私はミルクせんべいの屋台  
の売り子を担当させていただきました。自分で自分の屋台の商品を試食した感想は「案外練乳  
っておいしいなあ」と思いました。



今回の秋祭りキレイな花柄の浴衣も着  
る事ができましたし食品屋台は美味し  
かったです！大成功だと思いました！  
この場をお借りしまして担当者の方に  
「是非また来年も秋祭りやりましょう」と  
声を大にして提案したいです。  
本当にありがとうございました！！

ぶんせき はぎはらこずえ  
(文責 萩原 梢)







自立生活センター・ナビ  
からのお知らせ

## 段差戦隊ジメンジャー(NPO法人ちゅうぶ) & 障害者自立生活センター・スクラム 交流会

障害者自立生活センター・スクラム(大阪市大正区)と段差戦隊ジメンジャー(NPO法人ちゅうぶ)と交流会を開催することになりました。今回は、スクラムから尾濱さん(視覚障害者)も参加されるということで、ジメンジャーが使っている「ものさし」を改良し、メモリが浮き出たように作り、完成したものをさしを持って事前に、スクラムを訪問させていただきました。私たちも初めての試みだったので試行錯誤しましたが、実際に、ものさしに触れてもらい、確かめてもらいました。ものさしは今後の交流会で段差調査をする時に使ってもらう予定です。



写真では、わかりにくいかもしれませんが、メモリのところが浮き出ています。



事前訪問させていただいた時に、記念写真を撮らせてもらいました。

### ●交流会1回目(11月22日(金))zoom開催

お互いの活動内容を紹介するという内容にしました。スクラム活動紹介では、動画を交えながら、自立生活プログラム・ピアカウンセリング・障害者サポート活動・仲間づくりなど、ノリと勢いを大切にしながら活動しているということを明るく楽しく紹介いただきました。ありがとうございました。(ジメンジャーからは、赤おに、青おにの活動紹介(ジメンジャーの活動紹介は次回の交流会で。)をしました。

### ●交流会に参加した感想

【ジメンジャー】たくさんの方に参加してもらえて良かったです。みんな仲がよさそうでいいな。と思いました。尾濱さんに対して、状況やパワーポイントなどの説明も、障害者、健常者が関係なく、ごく普通に接し、フォローしてしていたのは、すごいなと思いました。お互いの活動紹介でスクラムの事業内容の説明が映像にまとめられていて、わかりやすかったです。とても仲が良く、アットホームな雰囲気がしました。当事者スタッフの方達に、スクラムに関わるきっかけを聞けて良かったです。

【スクラム】赤おに・青おにの活動紹介を自主製品を使いながら具体的に教えてもらいました。スクラムにはない活動内容だったので新鮮でした。

まだ暑さも厳しい9月2日の1番最初の月曜日、お初天神へ行った。

気になるのは、3年程前の四柱推命。天王寺で3人の占い師の先生に占ってもらった結果、何%の確率が聞かなかったが、61歳で出会いがあると言われた。今年退所された、武智さんがおられた時に「木戸さんの結婚は占い師の言った通り」と言われた。いま現在、木戸は61歳の婚期。今年7月17日(水)、通天閣の下で500円の占いで言われたのは、「今年思う様になる」。

結婚出来ないと思うと、結婚出来ない。結婚出来ると思うと、結婚出来る。と、あやふやなことも言われた。家の仏さんを大切にしなさい、これから、人生良い人と出会うとも言われた。

今日、スタッフと地下鉄田辺駅から谷町線経由で東梅田まで向かい、霊験あらかたな縁結びの神様、お初天神へお参りに行った。来年の誕生日3月迄には何とか良い人と出会いますように、と何回も何回も繰り返し、恋愛・出会いが叶うよう100%の祈願をしたが、こんなにちまですぐこれといった、女の人との出会いもない。



3年前にはHHさんと一緒に、日本で一番大きい縁結びの神様、島根県の出雲大社に行った。当時の四柱推命の占いでは、もう過ぎていたがさらに遡って4年前の11月に、50%の確率で出会いがあったらしい。飲食関係の女の人？しっかりした人？中流家庭の人、という話だった。だが占いのような出会いには気づかなかった。



月日は過ぎて去年、12月頃からメンタル的にしんどくなり、情緒不安定になっていたところ、木戸の故郷の近くの能登半島で大震災が発生した。6月になってからだが、福井の敦賀市に住んでいる従兄弟に電話すると、自分たちは大丈夫なので心配ないとのこと、木戸も安堵した。

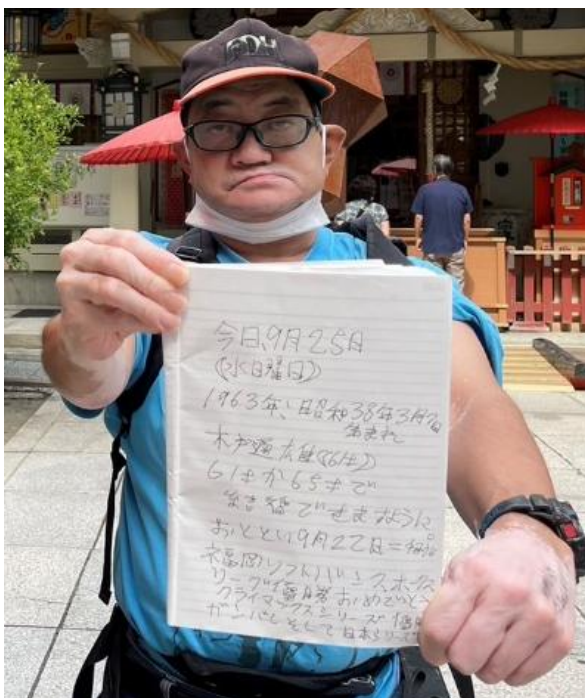
ようやく北陸も敦賀まで新幹線が敷かれ開通となったので、木戸は今年度、福井市の三国の蘆原温泉・恐竜博物館・東尋坊に二泊三日で行きたかったが、この度の能登の大震災で、残念ながら延期となった。

話は戻るが、去年通天閣の占い師に「ガールハント、女の子に声をかけていけ」とアドバイスされたが、されど占いはあくまでも占い、占い師は確実な約束はしない。いつ行っても同じようなことを言ったりもするし、これから木戸の思い通りになるとか、大きいお金が入ってくるとか言われたこともある。たくさん褒めてくれたりもするが、内心、ほんまかいなと疑う気持ちもあった。



そして9月25日水曜日、今月二度目のお初天神お参りに行った。神社に到着したのが、幸運？にも、ちょうど12時正午だった。またちょうど3日前の日曜日、福岡ソフトバンクホークスがリーグ優勝したところで、小久保裕紀監督が就任一年目で胴上げとなった(おめでとうございます！)

だがセリーグでは、木戸は夏前から広島カープが首位をそのままキープしていくと予想していたが、9月半ばあたりから巨人が追いつき、28日にリーグ優勝した。阿部慎之助監督も就任一年目、もし日本シリーズでホークスと対戦するとしたら、どちらが勝っても就任一年目の日本一の監督となるだろう。でもまだクライマックスシリーズがある。2位阪神にもわずかな望みがあるだろう。



お初天神でも、ホークスの日本一必勝と、木戸にいい出会いがあるように、境内で二つの祈願をノートに書き、お参りの始めに記念に写真を撮った。

(文責: 木戸通雄)



# 241219 マノスタ 京都嵐山 ～紅葉と芸術と旅の出会いと～

写真盛りだくさんです。佐野会長、舟橋秘書、  
唯のトミタ、4人で阪急乗って嵐山は渡月橋、  
福田美術館へ、秋の散策を楽しみました。  
ポケモンキャラのマンホールがお出迎え↓



↓ 関東から来訪の娘さんに秘書が撮影お声かけしたら快諾してくれました(〃)

別組の関東の娘さんとも ↓ 渡月橋にて ↓



↓ 福田美術館、別口のスロープから入館。伊藤若冲という  
日本画家の企画展やってました(コロッとかわいい仔犬図↓)。  
→ 館内のカフェ横からの眺め。偶然の出会いが光った旅でした！





きょうりよく か い ひ

きょうりよくしや め い ぼ

## 協力会費・カンパ協力者名簿

かわしま まさえ さん 川嶋 雅恵 さん	ひがしすみよし (東住吉区)	さ の よしみつ さん 佐野 欣満 さん	とうきょうと (東京都)
-------------------------	-------------------	-------------------------	-----------------

がつ にちげんざい  
1月4日現在

ご協力ありがとうございました (担当: 安東)

「ぼった<sup>クリ</sup>栗、<sup>クリ</sup>栗マシマシケーキ」



このケーキ、1万円(まんえん)でどう?(エヘッ)、  
メリー<sup>クリ</sup>スマス!! & A Happy New Year!

ケーキ

<sup>クリ</sup>栗いっぱい

※実際はぼったくるような人物(じんぶつ)ではありません



青おにくん:「子供(こども)たちに配(くば)るプレゼント、何が喜(よろこ)ばれるかな」

赤おにくん:「大谷(おおたに)のホームランボール(ホームランボール)がいいんじゃない、  
無理(むり)ならバットで」

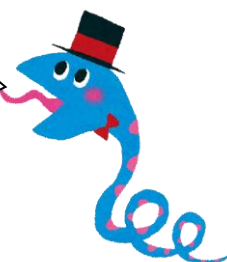
青おにくん:「それはボクらの財力(ざいりよく)では無理(むり)だね。でも、あの価値(かち)は  
子どもたちへの夢(ゆめ)であって、お金(かね)ではないと思う(おも)うけどね。」

オオタニ(おおたに)ではなく、オニ(おに)のバット(バット)(金棒(かねぼう))なら手(て)に入る(はい)よ」

赤おにくん:「それ(それ)をもら(もら)っても誰(だれ)も喜(よろこ)ばないだろうね」

二人(ふたり):「では、皆さま(みな)メリークリスマス!! & A Happy New Year!」

ヘビー級(きゅう)な相手(あいて)であろうと、差別(さべつ)があれば<sup>きば</sup>牙(を)を<sup>む</sup>剥(む)き、目標(もくひょう)に向かって<sup>しゅんじ</sup>瞬(しゅん)時に<sup>とび</sup>飛(とび)びかかるスピードと、クネクネとした柔軟性(じゅうなんせい)をもちながらも、  
たとえ、手(て)も足(あし)も出(で)なくても、ここその時(とき)は<sup>ひとかわ</sup>一(ひと)皮(かわ)、<sup>ふたかわぬ</sup>二(ふた)皮(かわ)脱(ぬ)ぎ、未来(みらい)の<sup>たまご</sup>卵(たまご)(後継(こうけい))  
をしっかりとあたたためて育(そだ)てる、これからも皆(みな)さんとすえ<sup>な</sup>が<sup>く</sup>やっ<sup>て</sup>い<sup>き</sup>きたい、そんな<sup>エヌピーオー</sup>NPO(エヌピーオー)ちゅうぶ(ちゅうぶ)を2025年(ねん)もよろしくお願(ねが)い致(いた)します。



2025年1月～3月 スケジュール		
1月14日	火	「優生保護法問題の全面解決へ」院内集会12～15時 @衆議院第一議員会館
1月26日	日	インクルーシブ教育シンポ「鍛冶克哉さん&橋本直樹さん(南桜ヶ丘小学校長)」13時～@住之江舞見ホール
2月7日	金	～9日(日) アメニティフォーラム@大津プリンスホテル
3月7日	金	～8日(土) 防災一泊企画 @ちゅうぶ
3月14日	金	～15日(土) 地域共生ケア全国ネット集会 @たかつガーデン
3月15日	土	～16日(日) ポムハウス嗜痰等吸引(3号)研修 @ちゅうぶ

●包丁を研ぐ。ほんとに時々だが、切れ味が戻るしなんだか気持ちが落ち着く。そういえば父は農機具づくりの職人で鋸、鋤、鎌などの金具に柄(木製品)を加工し組み立てる仕事。刃物を研ぐ、かんなを使う姿はなんとなくカッコよかった。心穏やかざる2024年、世界も日本も落ち着かない。戦争の火種は増えているし、福祉業界も怪しい。インクルーシブ社会は掛け声と実態は乖離している気もする。教育は分離が更に進む懸念。面白いこととやるべきことのバランスが難しい。また包丁研ぎながら考えよう…(いしだ)

●ちゅうぶに入るまで色々な仕事をしてきた。保育士・飲食・フリーター・電気工事・放課後デイサービスで今に至る。仕事が長続きしない様に見えるがちゃんと辞めた理由はある。シンプルに給料が低かったり、休みが無かったり、とある化学実験施設で温度が50℃の場所で電気工事をしてこのままでは命が危ないと思ったり。仕事を辞める理由を見つけたのは簡単だが、続ける理由を探すのは難しいと感じる事が多かった。色々縁があってちゅうぶに入ってもうすぐ丸二年。真面目に仕事するだけではダメだなと思うことが増えた。真面目に面白く働いている人ばかり。僕には面白味が足りていないと痛感する事だらけ。肩の力はずっと入っているし、少しずつ抜けていければ良いなと思いながら、初めての編集後記をあーでもないこーでもないと真面目に書いている。2025年はユーモアに溢れる人間になる。両親から貰った『あなたと関わった人は得をする』という言葉を大事に、これからもメンバーと色々な楽しみながらやっていきます。(ささき たかひろ)

●おもしろおかしいこと書きたいんですけど、さすがに4人目の娘のことを書きます。昨今少子化少子化言うてますが、ちゅうぶだけはなんかバグってまして、空前絶後のベビーブームで、ここ最近だけでもパツと出てくるだけで10人以上！もうわけわからんぐらい産まれてたり、産まれる予定やったりなんです。まーかくいう私も去年の12月に4人目の子供が産まれまして、もうすぐ一歳でして、女の子でして、だからウチは4人とも女の子なんです、どんどん家に僕の居場所はなくなってきてまして、まーそんなことないんですけど、皆さんの想像通り家の中は毎日カオス、電気使いまくり、宿題忘れまくり、トイレ詰まりまくり、トイレトペーパーの消費量松原市No.1やと思います。もちろん家に綺麗な場所は、ないです。でも家族皆心は綺麗！最高！ありがとう！ちゅうぶ！そんなわけで、お金が全然足りません！！以下内訳、チャイルドシート2万円、保育園制服6万円、保育園毎月3万円、自転車の前カゴ(遠園に必須)2万円、中学校制服等8万円、毎月のトイレトペーパー代2千円。濱田ベビーカーブライスレス！辻谷がくれたチャリブライスレス！でもマジで普通にマイナス！このままでは上田に大体奢られ続け、朴さんの店でタダ飯食いまくり、借りが溜まっていく一方です。ギブアンドテイク！初めてのアコム！ゲッダンプロミス！どうする！アイフル！T P I 尾上さん！助けてください！！(しげはら かづき)

【東住吉区障がい者基幹相談支援センター】  
【自立生活センター・ナビ】  
〒546-0042 東住吉区 西今川 2-3-8  
でんわ = 06 (6760) 2671  
ファックス = 06 (6760) 2672



【グループホーム・リオ】  
〒546-0032 東住吉区 東田辺  
2-21-21  
でんわ&ファックス  
= 06 (6608) 5244  
【ヘルプセンター・すてっぷ】  
NPO法人ちゅうぶ 2階  
でんわ = 06 (4703) 3741  
ファックス = 06 (6628) 0271

【障害者活動センター 赤おに】  
〒546-0031 東住吉区 田辺 5-6-10  
でんわ = 06 (6623) 7300  
ファックス = 06 (6657) 5010

【障害者活動センター 青おに】  
NPO法人ちゅうぶ 1階  
でんわ = 06 (4703) 3742  
ファックス = 06 (4703) 3743

編集：特定非営利活動法人  
エヌピーオー・ほうじん  
【NPO法人 ちゅうぶ】



〒546-0031  
おおきかしひがしあすなば  
大阪市東住吉区田辺5-5-20  
でんわ=06 (4703) 3740  
FAX=06 (6628) 0271

ホームページ=https://npochubu.com/  
メールアドレス=chubu@npochubu.com  
郵便振込口座：00960-6-313427  
通信 定期購読料 = 1年間2,000円